

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

【学 年】中学校 2学年

【題材名】平調子の音階の特徴を生かして、旋律をつくろう（創作）（全4時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音のつながり方の違いによって「日本らしさ」の雰囲気が多様に変化するということ。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平調子の音階の特徴を生かして旋律を作り、楽譜に書き表すことができる技能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音のつながり方を変化させることで変化する多様な楽曲の雰囲気を感じ取り、自分が表したい雰囲気となるよう旋律を工夫する力。</li> </ul>

【主な学習活動と留意点】

前題材からのつながり：1学年の題材において鑑賞した「六段の調」で感じ取った「日本らしさ」について、自分の考えをより深めることができるように本題材を設定する。

働かせる見方・考え方：音楽に対する感性を働かせて、音のつながり方（旋律）の効果を視点に自分の作品をとらえ、表したい情景や心情とかかわらせて考えること。

段階	学習活動（時間）	留意点
導入	<p>◇「六段の調」を鑑賞する。（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平調子の音階の特徴を理解する。</li> </ul>	<p><b>学習問題を設定し、追究への意欲を高める場面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「六段の調」を鑑賞するよう促し、箏曲が生み出す「日本らしさ」について考えるよう促し、題材を通した学習問題を据えられるようにする。</li> <li>音階を視点に西洋音楽と平調子の音楽を比較して鑑賞するよう促し、その特徴を発表するよう促す。</li> </ul>
展開	<p>◇平調子の音階を用いて即興的にモチーフをつくり、リレーをする。（1）</p> <p>◇2小節のモチーフを作曲する。（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「さくらさくら」の前奏を作曲する。</li> </ul>	<p><b>表したい感じを創意工夫する場面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平調子の音階の中から生徒が任意の3音を選び、即興的な2小節のモチーフをつくり、友とつなげて演奏するよう促す。</li> <li>音のつながり方と感じ取れる雰囲気の例を提示し、自分の表したい雰囲気に合わせて2小節のモチーフを作るよう促す。</li> <li>自分が感じ取った「さくらさくら」の雰囲気につながる前奏を2～4小節でつくるよう促す。</li> <li>音のつながり方によって変化する前奏の雰囲気を感じ取りながら、旋律を自分の表したい感じに工夫するよう促す。</li> </ul>
終末	<p>◇自分の作品を発表し合う。（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本音楽に対する自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<p><b>「日本らしさ」について自分の考えを深める場面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の作品を発表し合うよう促す。</li> <li>日本の伝統的な音楽から感じ取った「日本らしさ」が、どのように深まったのかを視点に、学習をまとめるよう促す。</li> </ul>

次題材へのつながり：3学年の題材「日本の伝統的な音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう」における「雅楽」の鑑賞において、日本の伝統的な音楽についての自分が感じている「日本らしさ」をもとに、日本の音楽への理解を深められるようにする。